

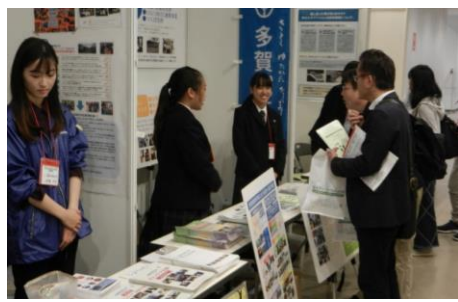
多高通信

第16号 平成30年11月26日発行



宮城県多賀城高等学校

ぼうさいの日をむかえたい 2018



10月13日、14日の2日間、東京そなエリアで開催された「ぼうさいこくたい2108」に本校の生徒代表2名が参加しました。この大会は防災推進国民大会として、東京都のそなエリア（東京臨海広域防災公園）と東京ビッグサイトの2会場同時開催で実施されました。

本校はブース展示を行い、本校が行っている「防災減災の取組」について来場された方々に説明し、皆さん熱心に耳を傾けてくださいました。また、岐阜県の岐阜聖徳学園高等学校主催のワークショップ「全国高校生地域防災 Summit2018」に参加し、大規模災害に備える・みんなの連携の輪を地域で強くする」というテーマのもと、活発な意見を交換しあいました。このワークショップでは、兵庫をはじめ全国の学校とインターネットテレビ電話「Skype」を用いて同時に話し合いを行いました。

■堀内 海里（1年5組 塩竈三中出身）

今回のイベントでは、全国にいらっしゃる災害に関わる仕事や勉強をしている方々の貴重なお話を直接聞くことができうれしかったです。また、岐阜聖徳学園のワークショップに参加し、新たな災害の知識や意見を豊富に聞くことができました。これから学んだことを自分たちの防災減災活動にかاشしていきたいと思ひます。

白嶺防災フォーラム2018

10月20日、21日の2日間、白嶺防災フォーラム2018が新潟県糸魚川市にて行われ、本校生徒3人

が参加してきました。このフォーラムは、平成28年12月に発生した大火から得た教訓を共有し、災害について学んでいる高校生との交流から新たな知見を得ることが目的とされています。



現在の火災現場は整備されており復興住宅の建設が進んでいました

1日目は「ぎわい創出広場」にて開会式が行われた後、糸魚川市内巡検を行い、糸魚川地区公民館にて研修会が行われました。糸魚川市では大火以降「子ども消防隊」が組織され、規律行動、消火器取り扱い研修、放水作業体験などが行われており、将来を担う人材の育成に力が入れられて

2日目は糸魚川白嶺高校にて「白嶺防災フォーラム」が行われました。生徒代表の挨拶の後、参加した高校がそれぞれの実践活動について発表しました。その後、ワークショップ形式で生徒同士が意見交換を行いました。生徒が取り組んでいる防災活動は様々ですが、ひとの命を守る「震災の教訓を伝える」といった気持ちを抱き防災活動に取り組んでいることが、生徒の表情から伝わってきました。



■工藤 花音（1年3組 田子中出身）

1日目は、糸魚川大火の実際の現場見学を兼ねて、糸魚川市内を糸魚川白嶺高校の皆さんに案内していただきました。火災当日の様子を写した写真が展示してある施設も訪れ、当時消火活動を行った元消防士の方にお話を伺ったことで、改めて被害の大きさを実感することができました。

2日目は、糸魚川白嶺高校で、兵庫県立舞子高校を含む3校の防災フォーラムを行いました。日頃の活動を紹介しあい、防災・減災につながりそうな活動をグループごとに話し合いました。津波被害、地震による建物被害、そして大火と、それぞれの被災した状況が異なる3校が集まることで、それぞれ異なる視点で話し合いができ、勉強になることがたくさんありました。これからの生徒会活動に取り入れていきたいと思ひます。

日本史特別授業

木簡からどういふことが分かるのか？



10月31日、奈良大学文学部史学科寺崎保広教授をお招きして、2年生の日本史B選択者を対象に「木簡からどういふことが分かるのか？」と題して特別講義をしていただきました。歴史を学ぶためには「史料」

の正確な読みが大切だということ、木簡に記された内容から歴史書や古文書には書かれていないような当時の人々の生活の様子を知ることができることなど、大学での研究成果を踏まえて詳しく説明していただきました。特に、木簡は乾燥に弱く保存が大変であることや、ほとんどが「削屑」として出土し、その読み取り作業に膨大な時間がかかるといったお話しから、歴史研究の大変さをあらためて知ることができました。

■生徒の感想

大学は高校と違い、問いに対して1つの答えではなく複数の答えがある、またそれらを答えるためには様々な史料を読み、事実をもとに考えなければならぬということ学びました。木簡は、教科書や資料集などで見ているものは割と完全なものが多かったけど、実際は削屑など破片や薄いものがほとんどだと聞き驚きました。また、そんなに小さいものから情報を得ている研究者などの努力も高校生ながら感心させられました。今日の授業を通して、木簡に書かれている内容や時代など、今まで知らなかったことを多く学ぶことができました。

世界津波の日 2018

高校生サミット in 和歌山

■青木 優奈

（2年5組 七ヶ浜中出身）

10月31日からの2日間、世界中から約50か国からの参加者が集い開催された「世界津波の日高校生サミット」に参加してきました。

私は初めての参加で、期間中に行われる発表やワークショップなどを英語で行うということで、私の英語が外国の方々に通じているのかどうか不安になることが多くあったのですが、皆さ



んが私の片言の英語を理解しようと努めてくれたおかげで何とかコミュニケーションを取ることができました。分科会での発表では、地震や津波を経験したことのない国の方々もおり、地震や津波などの災害の恐ろしさや、万が一のためにしておくべき日頃の備えなどを世界に発信する良い機会となりました。

レセプションパーティーでは、グループや国籍に関係なく、記念写真を撮ったり簡単な英語でコミュニケーションを取ったりすることができました。とてもフレンドリーな方ばかりで、良い思い出となりました。

正直、高校生サミットと聞いて、堅苦しい場面なのかと心配していましたが、今回の外国の方々との交流はとても有意義で貴重なものとなりました。

災害科学科2年 栗駒巡検

10月29日、30日の2日間、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震の被災地を回る栗駒巡検を、災害科学科の2年生を対象に実施しました。

■小角 神月（2年7組 高崎中出身）

今まで災害といえば地震や津波を優先的に考えていましたが、内陸における災害を改めて深く考えることができました。地層の中に一度弱い層が入るだけで、振動によって滑ることがあります。しかしこれはその土地を理解していないと予測することはできません。これから

の生活の中で、自分が生きるためには住む場所のことをよく理解する必要があると強く思いました。

また、山には人々への恵みとしての資源が豊富であることも分かりました。人工では作ることのできない自然の恵みは壮大で、地球が生きていることを肌で感じることもできた貴重な体験でした。

今回の巡検で災害に対する自分の視野を広げるとともに、自然が作る恩恵を感じることができました。今後の学びにぜひ活かしていきたいです。



荒砥沢ダム治山工事の説明を工事担当の方から受けました



駒の湯・山崩れ現場の視察

